

はじめに

揖斐郡読書感想文審査委員長

寺田英昭

どうして、読書感想文を書くときよいのでしょうか。本を読むだけでも素晴らしいのに、文章で自分の思いや感想を表現することには、どんなよさがあるのでしょうか。

「青少年読書感想文全国コンクール」のホームページに、コンクールの開催趣旨が書かれています。その中に、「より深く読書し、読書の感動を文章に表現することを通して、豊かな人間性や考える力を育む」とありました。つまり、読書感想文を書く活動を通して、「豊かな人間性や考える力を育む」ことができるというよさがあるのです。

読書感想文を書くことで、多くの児童生徒が、同じ本を複数回読んでいます。自分が感動したことを文章で表現することはとても難しいです。一回読んだだけでは理解も浅く、自分の思いや感想を言葉で表現することはできません。つまり、「書く」という目的のために、必然的に多くの児童生徒が「深く読書」をしているのです。

揖斐郡読書感想文審査において、とてもたくさん児童生徒の皆さん（二千二百三十三点）が応募してくれました。本を読むことを通じて感動したことや学んだことが自分の言葉で表現されていま

した。そして、どの感想文からも「読書が大好き」「本は宝物だ」という思いが伝わってきました。

審査にあたり、読ませてもらった児童生徒の読書感想文、どの作文からも、何度も本を読んでいることが伝わってきました。一度読んで分からなかったことや、感じなかったことが、次に読んだときに伝わってくる場合があります。同じ本なのに、全く違う本だと感じることもさえます。複数回読むことで、筆者や作者の思いにより深く触れることができます。今回読書感想文を書くにあたって読んだ本はもちろん、今までに出会った大好きな本、何度読んでも心に響く本、これから出会う本は児童生徒の「人生の宝物」です。

審査においては、実施要項にもあるように、「審査の窓①～⑧」を設け、客観性のある審査となるよう配慮いたしました。この冊子には、そうして選出された優秀作品を掲載してあります。指導者の先生方や保護者の皆様、児童生徒の皆さんに是非活用していただけたらと思います。

また、読書感想文の審査や作品集の発刊にあたり、揖斐郡教育研修センター、郡内各小中学校の先生方にお世話になりました。深く感謝いたしますとともに、心よりお礼申し上げます。

最後に、児童生徒の皆さんが読書感想文を書くことをきっかけにして、多くの素晴らしい本と出会い、人生を豊かなものにしていくことを心より願っております。